

令和2年度 土曜日の教育支援 活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	主な実施場所	委託	委託団体名
湖南省	9	いしべっ子学習教室	石部まちづくりセンター		
		みなみっこ土曜講座	石部南小学校		
		ひがしっこ教室	三雲まちづくりセンター		
		さんさん教室	学区内のまちづくりセンター など公共施設		
		土曜教室	岩根まちづくりセンター		
		学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校		
		菩提寺学区 土曜日の教育支援活動 ～わくわく体験・学習活動～	菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター		
		しもだっこ土曜教室	下田まちづくりセンター		
		土曜日の教育支援活動	水戸小学校、水戸地区の公園 水戸菜園		
東近江市	12	蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 初級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 中級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 上級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER (キッズフラワー)	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター	○	
		玉緒キッズダンス教室 (初級)	玉緒小学校体	○	玉緒地区 地域教育協議会
		玉緒キッズダンス教室 (中級)	玉緒小学校体	○	
竜王町	5	竜王キッズクラブ クッキングクラブ	竜王町農村女性の家 竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 竜王ユースプラス	竜王町公民館 他		

地域で子どもたちを支えるいしべっ子学習教室

湖南省	活動名： いしべっ子学習教室	石部小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	石部まちづくりセンター	開始年度：	平成 27 年度
年間開催日数：	5 日	地域学校協働活動推進員等数：	1 人
平均参加人数：	80 人	平均スタッフ数：	14 人
・活動内容：	■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

長期休業期間に集中して学習に取り組める場を提供し、子どもたちの学習意欲が高まるよう支援をしている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

まちづくり協議会に協力を依頼し、会場を校区の中心にあるまちづくりセンターに設定した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学校運営協議会の学習支援委員会が中心となり、協議し、子どもたちが安全に楽しく学習できるように配慮した。終了後、参加児童にふりかえりを書いてもらい、部会で反省会を開き、改善すべき点を明確にしている。

コロナ対策として、1 日を 2 部に分け、密にならないような参加人数にした。受付前に児童の検温、手の消毒、前半と後半の間に机などの消毒作業も徹底した。



【 夏休み学習教室 】

■ 事業の成果と課題

地域の学習支援ボランティアやまちづくり協議会の協力に支えられ、のべ 403 人の子どもたちが参加し、集中して学習に取り組めた。分からないところはすぐに質問できるようにしているので、子どもたちの中に達成感が得られた。

いしべっ子学習教室が児童や保護者にも浸透し、年々参加人数が増えてきている。そのため、教室や学習支援ボランティアの確保が課題である。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

「子どもと地域がひびきあう！」 しめなわ作りに挑戦しよう！

湖南省	活動名： みなみっこ土曜講座	石部南小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	石部南小学校	開始年度：	平成 28 年度
年間開催日数：	11 日（今年度は 5 日開催）	地域学校協働活動推進員等数：	1 人
平均参加人数：	40 人	平均スタッフ数：	10 人
・活動内容：	■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

みなみっこ土曜講座では「ふるさと意識の醸成」「主体性の育成」を大きな柱とし、校区にある県立近江学園を舞台に子どもたちへの研修を行ったり、地域に伝わる伝統行事に参加したりと、地域の特性を生かした活動を行っている。

今年度は 5 年生が田んぼの子で作ったもち米の藁を使い、6 年生全員がしめなわ作りを体験した。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域ボランティアには事前にしめなわ作りを体験してもらうことで、子どもたちにスムーズに教えることができた。

学校応援団だよりを毎月発行することで、学校で行われている活動が地域や保護者に定着している。



【 しめなわ作りの様子 】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

当日は密にならないように、地域ボランティアの人数を増やして、各グループが少人数になるように、そして体育館を広く使い行った。

今年度はコロナ禍の影響で、11 回の講座中 5 回のみ開催となった。

■ 事業の成果と課題

6 年生の体験活動を中心に行なったため、5 年生以下の子どもたちの参加が出来なかった。

学校外で行われる講座が中止となった。

報告書記入者（ 地域学校協働推進委員 ）

地域と協働して開く「ひがしっこ教室」

湖南省	活動名： ひがしっこ教室	三雲東小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：	三雲まちづくりセンター	開始年度：	平成 26 年度
年間開催日数：	10 日（開催ペース：夏休み週 2 回／秋週 1 日）	地域学校協働活動推進員等数：	1 人（兼務 1 人）
平均参加人数：	25 人	平均スタッフ数：	3 人
・活動内容：	☒ 学習支援 ☒ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

夏休みの宿題・自主学習の支援、折り紙アート（うちわ作り）・絵手紙・お抹茶
オリジナルフォトフレーム作り（水風船スタンプ）折り紙で名札作り
秋季に「ふるさと歴史探訪」を実施
（うつくし松・夏見神社・盛福寺・新明神社・観音寺・夏見神社）

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・三雲学区まちづくり協議会との連携による講師の依頼
・地域のボランティアセンター（ボランティアグループ）湖
・卒業生（大学生）への声かけ

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・三雲まちづくり協議会との連携
・地域人材を活用した体験学習、学力補充に関わっていただき、取り組みについて知っていただく場とした。
・密をさけるため、上学年と下学年に分かれての実施、及び、広い会議室を使用
・会場での検温、アルコール消毒、マスク着用、換気、実施前と実施後の机やイスの除菌作業
・申し込み時と開催日にコロナ対応についての児童への説明

■ 事業の成果と課題

・スタッフの人数が安定してきた。継続的に関わっていただいていることで、内容が変わっても運営がスムーズになってきた。
・安全面を考慮して開催できたことが、コロナ禍で出会えなかった友達と一緒に過ごせる機会となり、児童にも笑顔が見られた。

■ その他

・コロナの状況が落ち着けば、「中学生のスマールティーチャー」を呼びたい。



【 折り紙アート作り 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

地域ぐるみで子どもを見守る「さんさん教室」

湖南省	活動名： さんさん教室	三雲小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：	学区内のまちづくりセンターなど公共施設	開始年度：	平成 27 年度
年間開催日数：	10 日	地域学校協働活動推進員等数：	1 人
平均参加人数：	20 人	平均スタッフ数：	15 人
・活動内容：	☒ 学習支援 ☒ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

地域で活動されている講師を招いての絵てがみ作り、お抹茶の体験学習。夏休みの宿題や自主学習の支援。秋季には歴史探訪（うつくし松自生地、夏見神社、観音寺他）を実施。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

みくも学区まちづくり協議会と連携し、各地区からのスタッフの配置や材料費の支援を受けることが出来た。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ対策として、検温、消毒、換気をし、下学年（1 年～3 年）と上学年（4 年～6 年）に分けて日程を組み 1 会場の人数を減らした。飛沫防止対策として会話が少なくなるよう「絵てがみ作り」を主に取り組んだ。「歴史探訪」は屋外での学習ではあるが、マスク着用を徹底した。

■ 事業の成果と課題

学習だけでなく参加型の体験を企画したことで、参加希望者は増加傾向にある。例年、人気のある「抹茶体験」は継続して行い「歴史探訪」は地域の歴史を知る機会としてシリーズ化していきたいと考えている。

■ その他

昨年度、中学生に依頼した「スマールティーチャー」はコロナ禍のため取りやめた。



【 絵てがみ作り 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

自尊感情を高める学習支援 ～ ふり返りの共有を大切に ～

湖南省	活動名： 土曜教室	岩根小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	岩根まちづくりセンター	開始年度：	平成 22 年度
年間開催日数：	20 日	地域学校協働活動推進員等数：	1 人
平均参加人数：	6 人	平均スタッフ数：	7 人
・活動内容：	■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

個別の指導・支援を要する通常学級児童の内、校内の協議結果に保護者の合意が得られた児童を対象として個別の学習支援を実施している。原則個別指導の体制を構築し、国語と算数の基礎的内容を窓口として自尊感情を高めることを目指している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

スタッフは校区在住の元教員・保育士および教育や福祉等を志す学生等であり、平日の学校支援員を兼ねている者もある。人から人にリレーされた情報により、校区外・市外から来てくれている学生もいる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・対象児童の人数・・・適正規模により指導・支援の質を保てる範囲を維持し、保護者の理解と協力を得ること。
- ・目的の共通理解・・・弱みを受け入れながら課題に取り組むことをとおして、自尊感情を育てること。
- ・体制の構築・・・現職の教員は管理職のみとし、運営もスタッフも地域人材が担うこと。

■ 事業の成果と課題

- 間違いを恐れずに課題に取り組むことで、スタッフと児童および児童相互に自己開示的な人間関係が形成される。
- 専門家による音読指導を組み込むことで、表現に関するポイントの理解や自分の変容に対する自覚が生まれる。
- スタッフのふり返り会は、児童の姿や指導のあり方を話し合うことを通して学生が学び合う場となっている。
- △ 家庭状況や児童の意向の変化により、通いたくても通い続けられなくなる児童が年間 1～2 人発生する。

■ その他

- ・外国にルーツのある児童の支援を行う場の充実に向けて検討を続けている。



【 苦手意識に寄り添う 】

報告書記入者（ 校長 ）

自分たちの地域を知って、いろいろ学ぼう ！

湖南省	活動名： 学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター	開始年度：	平成 26 年度
年間開催日数：	3 日	地域学校協働活動推進員等数：	2 人（兼務 2 人）
平均参加人数：	24 人	平均スタッフ数：	6 人
・活動内容：	□学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

今年度は、夏休み勉強会や郷土学習等年間 10 回予定していたが、コロナ禍の中、3 回（内 1 回は 2 月予定）実施。活動としては、地域の資材を使つての門松作り、書道教室など。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

学区内の豊かな資源（竹林の竹、松等）から必要な材料を調達したり、制作にあつた説明や指導をしてもらったり、まちづくり協議会の協力を得て、もの作りを体験できた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

普段、何気なく見ている植物も、生活の中でいろいろな活用方法があることに気づき、自分の住んでいる地域の良さを再確認する機会を持つことができた。

コロナ禍での対応としては、密にならないように活動部屋をいくつかに分け、検温・マスク着用は徹底した。

■ 事業の成果と課題

今年度の活動としては、充分満足いくものではなかったが、実施した活動に対しては、参加者から「参加して良かった。」という言葉をもらうことができた。少ない回数ではあったが、事業の存在が児童だけでなく保護者にも浸透しているように思えた。

■ その他

次年度は、コロナも収束し計画通りに活動ができたらと願う。



【 12 月門松作り 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

菩提寺学区 土曜日の教育支援活動 ～地域の子どもが繋がる～

湖南省	活動名： 菩提寺学区 土曜日の教育支援活動 ～わくわく体験・学習活動～	菩提寺北小学校 学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター	開始年度： 平成 22 年度
年間開催日数：	4 日	地域学校協働活動推進員等数： 1 人
平均参加人数：	45 人	平均スタッフ数： 5 人
・活動内容：	■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）	

■ 活動の概要・特徴的な活動

菩提寺学区にある菩提寺北小学校・菩提寺小学校の2校が菩提寺まちづくり協議会の支援のもと、毎年10回の土曜日の教育支援活動をおこなっている。しかし今年度はコロナ禍の中4回しか実施できなかった。(絵画教室・門松づくり・書道教室・凧づくり)

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

講師や指導はすべて地域の方をお願いして、また推進員以外にもたくさんの支援員がサポートし、2校集まったの体験活動もスムーズにおこなわれた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

参加者の安全を最優先に感染予防対策をしっかりとすることを徹底
マスク・手指消毒・受付での全員検温・密を避けるために使用する部屋を分散



【 間隔をあけての書道教室 】

■ 事業の成果と課題

事業前半で計画していたものはすべて中止となり、後半の事業は開催の仕方を模索し感染予防を徹底しながら開催した。子どもたちが笑顔で楽しそうに取り組んでいる姿をみて、来年度は計画が全て実施できるように期待している。

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

「らくらく勉強会」との連携で見た新しい形 ～もしようサマースクール2020～

湖南省	活動名： しもだっこ土曜教室	下田小学校 学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	下田まちづくりセンター	開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数：	4 日	地域学校協働活動推進員等数： 3 人 (兼務 2 人)
平均参加人数：	20 人	平均スタッフ数： 8 人
・活動内容：	■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）	

■ 活動の概要・特徴的な活動

毎年実施してきた「もしようサマースクール」だが今年度はコロナ禍という状況で、中止も視野に入れ計画をしていた。そんな折、「らくらく勉強会」と連携して実施するという案があり、コロナウイルス感染症対策を万全にすることで実施に至った。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

「らくらく勉強会」と連携することで普段学校での活動に参加しているボランティアとは違う地域のボランティアの方々と接することができ、ともに活動することができた。



【 学習の様子 】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

・コロナ感染予防のために、子どもたちや保護者には「健康観察カード」での健康管理や消毒の徹底などに協力していただいた。参加したボランティアも同じように健康観察を徹底し、当日はマスクやフェイスシールドも着用して活動にあたった。
・参加者を「らくらく勉強会」に通っている子どもたちに限定し、時間割り等も勉強会のスタイルに合わせて実施した。
・まちづくりセンターにも感染予防のための対策について助言をいただいた。

■ 事業の成果と課題

・コロナ禍という特殊な状況でも実施できたことは大きな自信となったが、無事に活動を終えても、感染していないか一定期間体調を心配しなければならないのは辛かった。
・「らくらく勉強会」のスタイルで実施したことでスムーズに活動することができたので、次年度にも引き継ぎたい。
・まちづくりセンターとも連携をしっかりとることができたので、今後の活動時にも活かしていきたい。

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

水戸っ子 学ぶ力アップ！教室 ～子どもが活躍できる場を地域と共に～

湖南省市	活動名： 土曜日の教育支援活動	水戸小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：	水戸小学校、水戸地区の公園、水戸菜園	開始年度：	平成 26 年度
年間開催日数：	11 日	地域学校協働活動推進員等数：	9 人（兼務 2 人）
平均参加人数：	23 人	平均スタッフ数：	4 人
・活動内容：	☒ 学習支援 ☒ 体験活動 ☐ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☒ その他（ まちづくり ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・外国にルーツのある子どもたちの勉強会、地域の防災訓練、清掃活動、芋の収穫体験。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・CS理事会で子どもにつけたい力は何か、そのためには地域で活躍できる場を与えることや保護者に活動を理解してもらうことが必要と考え自治会やまちづくり協議会との連携を図った。夏休みの活動には水戸小出身の大学生にも参加してもらった。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・これまで広く募っていたボランティアを限られた方にした。案内にはマスクの着用や検温と消毒への協力を必ずお願いした。勉強会の教室は学年で分けるようにして子どもの座る席も間隔をとり換気を行った。屋外の活動では、目的を明確にするよう工夫し時間の短縮や距離をとりながら行うこととした。



【 晴天の下、芋の収穫！ 】

■ 事業の成果と課題

- ・勉強会では、日頃からサポートしてくれているボランティアが子どもと顔見知りなこともあり、温かく寄り添ってくださった。
- ・コロナ禍で地域の活動も減っていたことから芋の収穫体験活動には予想を上回る参加があり、このような機会を待っていたのだと感じ子どもたちが楽しむ様子を見て地域の方が喜ばれていたことや、地域の方や地域資源を子どもたちが知る機会となった。

■ その他

- ・親子での参加を意識して呼びかけ、地域と子ども、学校の活動をつなげられるよう取り組んだ。この活動を継続していくことでそれぞれの距離が近くなり地域と共に子どもを育てる意識を高めていきたい。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 14 年度
年間開催日数：	6 日（開催ペース：月 1 日）	地域学校協働活動推進員等数：	1 人（兼務 1 人）
平均参加人数：	3 人	平均スタッフ数：	2 人
・活動内容：	☐ 学習支援 ☐ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・茶道経験のない子がほとんどなので基本から学んでいる。
- ・茶道の所作と併せて基本的な礼儀作法についても話している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者を見つけるために人材バンクやボランティアグループのリストを利用している。他に指導者間のネットワークも利用。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・年度末に体験教室を開き、面白さや楽しさをより多くの子どもたちに感じてもらうクラブ員を増やす工夫をしている。
- ・コロナ対応としては、活動中のマスク着用はもちろん、活動を始める前に子ども・おとな全員の検温および手指消毒を実施している。



【 体験会の様子 】

■ 事業の成果と課題

- ・クラブ員はより深く茶道を理解することにより、積極的に練習に集中する様子が見られる。
- ・動き自体が地味なものなので、その面白さが理解されにくい。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度：	令和元年度
年間開催日数： 6日（開催ペース：月1日）	地域学校協働活動推進員等数：	1人（兼務1人）
平均参加人数： 5人	平均スタッフ数：	2人
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・制作上の面白さと同時にガリ版発祥の地としての意義もつたえている。
- ・一人ひとり制作する内容が違うので、それぞれの思いを大事にしている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・ガリ版をともなった地域おこしとして来られている協力隊の方に指導してもらっている。また、新ガリ版ネットワークの方にも指導をお願いしている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・最初は簡単な作業でできるガリ版印刷をおこない、次第に自分の好きな図柄などに移行していくようにしている。また、布製のトートバッグなどにもガリ版印刷をし、目先を変えている。



【 体験会の様子 】

■ 事業の成果と課題

- ・ガリ版印刷の楽しさを理解してもらうと同時に、蒲生地区がその始まりの地であることを理解してもらえた。
- ・地味な作業であるためPRがむづかしく、仲間の輪を広げるのがむづかしい。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ マックスダンス 初級	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成24年度
年間開催日数： 6日（開催ペース：月1日）	地域学校協働活動推進員等数：	1人（兼務1人）
平均参加人数： 18人	平均スタッフ数：	1人
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・初級のメンバーはほとんどがダンス未経験者である。また低学年が多い。
- ・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気大切にしている。そのため、子どもたちの意欲が継続し高まるように工夫している。
- ・初級はメンバー数が多いので、より広い場所（小ホールフロア）に会場を移して密にならないようにしている。



【 練習の様子 】

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。
- ・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。
- ・練習時間が短いために全体の動きを合せるのが難しいことがある。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ マックスダンス 中級	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 26 年度	
年間開催日数： 6 日（開催ペース：月 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 5 人	平均スタッフ数： 1 人	
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。
- ・少人数のため密にはならないが、活動中は常に窓を開けておくなど、換気に注意している。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちはより難度の高い技能を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
- ・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるためステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。

■ その他



【 発表会の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ マックスダンス 上級	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 27 年度	
年間開催日数： 6 日（開催ペース：月 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 9 人	平均スタッフ数： 1 人	
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
- ・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。

■ その他



【 練習の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER (キッズフラワー)	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 14 年度	
年間開催日数： 4 日（開催ペース： 2 か月に 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 8 人	平均スタッフ数： 2 人	
・活動内容： ☐ 学習支援 ☐ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得する。
- ・じっくりと落ち着いて取り組むことで、創造することの楽しさを味わってもらう。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
 - ・作品を年度末のマックスクラブ発表会などに展示して、創作意欲を高めるようにしている。



【 クラブ員の作品 】

■ 事業の成果と課題

- ・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
- ・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。
- ・材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 28 年度	
年間開催日数： 30 日（開催ペース： 週 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 14 人	平均スタッフ数： 2 人	
・活動内容： ☐ 学習支援 ☐ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろう小学 3 年生以上を対象にしている。
- ・週 1 回の合同練習と楽器を家に持ち帰っての練習で、技術レベルが落ちないようにしている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・クラブ員の保護者など、経験のある方の協力を得ている。
- ・指導者の知り合いなどで他地域の指導している方の協力も得ている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
- ・発表会に出場して、ステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。



【 発表の様子 】

■ 事業の成果と課題

- ・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
- ・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれるようになった。
- ・週一回の練習のため、上達速度がおそい。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 14 年度	
年間開催日数： 6 日（開催ペース：月 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 18 人	平均スタッフ数： 2 人	
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・好きな作品を作ったり絵付けをしたりして、思い思いの作品作りをしている。
- ・マックスクラブ発表会で地域の子どもたちに体験教室を実施している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・職員以外の人にも声をかけ、幅広く人材を探している。
- ・クラブ員の保護者に当番制を敷き、活動日には 2 名ずつ補助として入ってもらっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・子どもの自主性を尊重し出来るだけ指導者は手を出さないようにしている。
- ・体験教室を実施することで、その面白さや楽しさを他の子どもたちに体験してもらいクラブ員を増やす工夫をしている。



【 作陶の様子 】

■ 事業の成果と課題

- ・陶芸に関心のある子どもが増えており、常にクラブ員が一定数集まる。
- ・作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・制作時間に個人差があり、早く終わった子どもや丁寧にゆっくり作業を進める子どもへの対応が難しい。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 20 年度	
年間開催日数： 5 日（開催ペース：月 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 10 人	平均スタッフ数： 4 人	
・活動内容：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ ■その他（ 郷土学習 ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・館外活動が基本であり、子どもの五感を使っての活動をこころがけている。
- ・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。
- ・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動してもらっている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・蒲生地区にお住まいの方で協力していただける方を、その回の内容に応じて依頼している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・活動内容の中で継続して観察するものや比較して違いを認識するものなどでクラブ員の興味を引き付けるようにしている。



【 カヌー体験 】

■ 事業の成果と課題

- ・東近江地域への理解を深めることができた。
- ・クラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をしていても遅い早いが出てくる。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生東・西・北小学校 学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター	開始年度： 平成 14 年度	
年間開催日数： 25 日（開催ペース： 週 1 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 20 人	平均スタッフ数： 5 人	
・活動内容： ☐ 学習支援 ☐ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・通常の練習は、初心者と経年者を時間差で分けて練習している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・わらべ組を卒業した高校生や大学生・社会人などに指導してもらっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・習熟度別に初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。
- ・練習時間をいつもより短くして、感染防止を行っている。



【 発表会の様子 】

■ 事業の成果と課題

- ・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

■ その他

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 代表 ）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名： 玉緒キッズダンス教室（初級）	玉緒小学校 学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所： 玉緒小学校体育館	開始年度： 平成 27 年度	
年間開催日数： 30 日（開催ペース： 週・月 3 日）	地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）	
平均参加人数： 10 人	平均スタッフ数： 3 人	
・活動内容： ☐ 学習支援 ☐ 体験活動 ☐ 芸術・文化 ☒ スポーツ ☐ その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

インストラクターの指導により、低学年層の子供達を中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。又、音楽や 他の人とも合わせられる事を重点に初級での上達を図ってみた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

コロナウィルスで学校が休みになり、少し休んだが学校の体育館は止めて、わたむきホールに会場を変えてダンスの場所の消毒、手の消毒、マスクの着用、体温の測定等を厳重に行った。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

■ 事業の成果と課題

コロナ禍での巣ごもりを解消する事ができた。運動不足の解消に大きな成果があったと思います。

■ その他

この事業の世話役さんが無いのが課題になっている。



【 教室の様子 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 会長 ）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名： 玉緒キッズダンス教室（中級）	玉緒小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：	玉緒小学校体育館	開始年度：	平成 27 年度
年間開催日数：	30 日（開催ペース：週・月 3 日）	地域学校協働活動推進員等数：	1 人（兼務 1 人）
平均参加人数：	10 人	平均スタッフ数：	3 人
・活動内容：	□学習支援 □体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

インストラクターの指導により、低学年層の子供達を中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。又、音楽や 他の人とも合わせられる事を重点に初級での上達を図ってみた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

コロナウイルスで学校が休みになり、少し休んだが学校の体育館は止めて、わたむきホールに会場を変えてダンスの場所の消毒、手の消毒、マスクの着用、体温の測定等を厳重に行った。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

■ 事業の成果と課題

コロナ禍での巣ごもりを解消する事ができた。運動不足の解消に大きな成果があったと思います。

■ その他

この事業の世話役さんが無いのが課題になっている。

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 会長 ）



【 教室の様子 】

今日からパティシエ！～作って楽しむクッキング～

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ クッキングクラブ	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：	竜王町農村女性の家、竜王町公民館	開始年度：	平成 27 年度（中断年度あり）
年間開催日数：	8 日（おうちクッキングを含む）	地域学校協働活動推進員等数：	3 名（兼務 3 名）
平均参加人数：	10 名	平均スタッフ数：	1 名
・活動内容：	□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

栄養士である地域住民を講師に迎え、調理の基礎を学び、技能の向上はもとより、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

町健康推進員を長年務めておられる地元栄養士の方に指導を受けることにより、健康にもよいお菓子から料理に至るまで分かり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地元の特産品である果樹等を有効活用して、講師が考えたクリスマスやバレンタインなど季節のイベントにあった簡単に作れるお菓子や料理作りをしている。
・感染拡大防止のため、10 月までは講師が考えたレシピを各家庭に送付し、自宅でおうちクッキングに挑戦してもらった。

・11 月より本格的に開講し、マスクやフェイスシールドを着用し、自分の物のみを調理する形をとっている。

■ 事業の成果と課題

・配付したレシピを使い、親子で作ったという声もいただき、クラブ時だけでなく家庭での実践に結びついている。
・本年度は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大を考慮し、一人で一から調理をすることで実践力が高まっている。
・クラブで習得した調理技術が、家庭でのお手伝いの幅を広げている。
・講師から提供されたレシピを子どもにもわかりやすいようにイラストを挿入して作成することや食材の買い出しなど、職員の負担が大きい。



【 ブッシュ・ド・ノエル作り 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

今日からワタシは、理科博士！

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	竜王町公民館 他	開始年度：	平成 18 年度
年間開催日数：	9 日	地域学校協働活動推進員等数：	3 名（兼務 3 名）
平均参加人数：	12 名	平均スタッフ数：	3 名
・活動内容：	■学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ ■その他（ 郷土学習 ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

サイエンスを通し、新しい学びや技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師に指導を受けることにより、分かり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、クラブ生のみ参加を条件として開催している。小さい子どもがいる家庭は、事前に連絡をいただき家族参加も可能としている。
・屋内での活動は座席の間隔を広くとるなど、密にならないように工夫している。

■ 事業の成果と課題

・天体観望（夏・冬）、自然観察会、野鳥観察会、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容に取り組むことにより、理科離れがさげられる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
・家族参加も可能なため、知識の向上はもとより、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。
・活動開始から 10 年以上が経過しているが、1 年生から参加できるクラブのため人気が高い。一方、低学年は保護者同伴とはいえ、対象者が 1 年生から 6 年生までと幅広く、みんなの歩調を合わせた活動の進め方が難しい。



【 冬の野鳥観察会 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

ひと文字ひと筆に心を込めて、モノにしよう綺麗な字！

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	竜王町公民館	開始年度：	平成 23 年度
年間開催日数：	20 日（ 自宅学習を含む）	地域学校協働活動推進員等数：	3 名（兼務 3 名）
平均参加人数：	21 名	平均スタッフ数：	2 名
・活動内容：	■学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

書道を基礎から学び、硬筆と毛筆の技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

県の展覧会等でも受賞経験のある有段者の元町職員に指導を受けることにより、連携や情報共有が安易で、より分かり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、物の貸し借りを禁止して運営している。
・小学校 2 年生から 6 年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取り組みができているので、6 年生まで継続してくれる子どもが多い。

■ 事業の成果と課題

・技能の向上をめざして、練習（復習）を重ねる継続した取り組みにより、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
・原則として月 2 回の開催のため、学校行事や地域行事等との重複や講師の都合等により日程変更も多く、日程調整に苦戦している。
・2 年生から参加できるため、毛筆の準備が一人でできない子どももあり、講師がかかりきりになることも少なくない。



【 硬筆指導 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

自分へのチャレンジ！達成した先には成長がある！

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：	竜王町公民館 他	開始年度：	平成 22 年度
年間開催日数：	8 日	地域学校協働活動推進員等数：	3 名（兼務 3 名）
平均参加人数：	17 名	平均スタッフ数：	2 名
・活動内容：	☒ 学習支援 ☒ 体験活動 ☐ 芸術・文化 ☒ スポーツ ☒ その他（ 郷土学習 ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

さまざまな体験にチャレンジすることで技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の農園や消防署員、元教師に指導を受けることにより、活動内容に応じて、より分かり易く学ぶことができるうに知識を身に付けられる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、クラブ生のみ参加を条件として開催している。（屋外活動は、家族の参加も可能としている。）

・夏休みに2泊3日の防災キャンプを計画していたが、感染拡大防止対策として宿泊を取りやめ、防災デイキャンプとして実施した。

・地元住民を講師に迎えることにより、地域とのつながりを実感することができる。

■ 事業の成果と課題

・野外活動が中心となるため安全管理を十分に行う必要があり、内容によっては活動に制限を設けざるを得ないことがある。

・カヌー体験、防災デイキャンプ、スキー教室等では、受講料以外に体験活動費用として負担金を徴収しなければならず、保護者の負担が増大する。

・宿泊体験等は、内容によっては事前研修の必要があり、講師以外にも指導員や協力者をお願いする必要があり、準備が大変である。



【スカイアドベンチャー体験】

報告書記入者（公民館 公民館係）

未来に羽ばたけ！子ども吹奏楽団♪

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ 竜王ユースブラス	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会： ■有 □無
主な活動場所：	竜王町公民館 他	開始年度：	昭和 62 年度
年間開催日数：	50 日	地域学校協働活動推進員等数：	3 名（兼務 3 名）
平均参加人数：	15 名	平均スタッフ数：	3 名
・活動内容： ☐ 学習支援 ☐ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他（ ）			

■ 活動の概要・特徴的な活動

楽器演奏を通じ、音楽の基礎知識を身に付け、技能の向上や両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方に指導を受けることにより、分かり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・講師が3名いることにより、分からないところはじっくりと各個人の技能にあわせた練習をすることができる。

・クラブ生に希望楽器の調査を行ったうえで、講師が体格や肺活量等をもとに、子どもにあった楽器を選んでいる。

・卒業生のほとんどが、中学校で吹奏楽部に入学するため、継続した活動ができる。

・中学校の吹奏楽部と良好な関係が築けており、公民館主催の演奏会や中学校吹奏楽部の定期演奏会等で合同演奏ができる。

・楽器演奏による飛沫感染を防止するため、練習を公民館ホールや部屋をわけて行っている。（一方向を向いて演奏）

・唾抜き部分にビニールを被せる等、楽器に溜まる唾の処理を的確に行うとともにゴミは各自で持ち帰っている。

■ 事業の成果と課題

・本年度は、新型コロナウイルス感染症により、県フェスティバルや町イベントが軒並み中止となったことで、発表の機会がほとんどなく、練習の成果を披露できず、クラブ生のモチベーション維持が難しい。

・異なった年齢の子どもが活動を行うことで、自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。

・受講生は担当楽器が決まっており、練習であっても一定人数がそろわないと練習にならないため、地域行事等により参加者が極端に少ない日は練習に支障がでることがある。そのため、日程設定に工夫が必要である。

・開催時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。



【楽器練習】

報告書記入者（公民館 公民館係）